

実践記録

学校 / 学年	中学校 / 2 年	
教科等：単元名	技術・家庭科：「情報モラル」	
キーワード	情報モラル 個人情報 メール 携帯電話	
情報モラル指導 モデルカリキュ ラム表における 目標	分類	☐ 情報社会の倫理 ☐ 法の理解と遵守 ☒ 安全への知恵 ☐ 情報セキュリティ ☐ 公共的なネットワーク社会の構築
	大目標項目数字 大目標項目内容	d3：情報社会の危険から身を守るとともに、不適切な情報に対応できる。 e3：情報を正しく安全に利用することに努める。 f3：安全や健康を害するような行動を抑制できる。
	中目標項目番号 中目標項目内容	D3-1：予測される危険の内容がわかり、避ける。 e3-2：自他の個人情報を、第三者にもらさない。 f3-2：人の安全をおびやかす行為を行わない。
授業会場	☒ パソコン教室 ☐ 普通教室 ☐ 特別教室〔 〕 ☐ その他〔 〕	
学習の目標	情報モラルに関わる様々な体験から、安全への知恵を学ぶ。	
使用教材	教材名	情報モラル研修教材 2005
	製作者	独立行政法人 教員研修センター
	入手先（URL等）	http://www.nctd.go.jp/ （CD）

○展開 2 時間扱い

	学習活動	指導 評価
導入	1 犯罪などでインターネットなど情報通信システムが大きく関わっている事例を考えながら情報モラルについて様々な体験を試み、確認する。	・ニュースの話題などで、インターネットに関するトラブルや、犯罪に利用される掲示板などの例をあげ、気になっていることや、気をつけていることを発表させる。
展開	2 体験ソフトを使い、情報モラルに関する事例を各自で体験する。「体験から学ぶ」	・「体験から学ぶ」のメニューに従って各項目の体験をさせる。
おわり	3 生活の中でどんなことに気をつけたらいいか、何に配慮したらいいかカードにまとめる。	間違った使い方や、知らないでいることが危険であることを理解できたか。(カード) 正しい知識や、正しい活用方法を身に付けていこうとする意欲がもてたか。(カード)

○授業の成果

- ・インターネットなどの情報通信には、使い方を間違えたり、知らないでいたりすると危険な場面があることを具体的に理解させることができるのではないかな。
- ・家族や周りの人に迷惑をかけてしまうことに気づく生徒や、普段使い慣れていても、使い方を間違えた時の危険性に気づく生徒がいるのではないかな。

○指導のポイント・留意点

- ・「体験から学ぶ」の内容は小 6 位の程度に感じるが、生徒の実態から中 2 にふさわしい内容である。
- ・あまり身近でない生徒にとっては情報量が多く、危険性や怖さなどが先にたってしまう。体験メニューを絞ってみることもあるか。または、「事例から学ぶ」の内容を扱うことも考える。